

# 「最高の授業」と「形骸化」

けいがい

「話しますー!」

「はい!」

ん?あの子とあの子は教科書に目を落としているぞ。こちらの子は何かをせっせと書いているぞ。これから仲間が話すのに、大丈夫なのかな。

スムーズに進んでいく(進みすぎる?)授業を見ていて心配になりました。「話します」と注意を促してこれから話そうとする生徒。その注意を受け止め、聞こうとスタンバイする生徒。自分の都合だけで話したり聞いたりするのではなく、互いに話す聞くの意識を確かめ合いながら進めていくのはすばらしいことだと感心します。

しかし、その陰で、授業の流れに乗れない(乗らない?)生徒たちが必ずいます。皆さんは気付いているでしょうか。その生徒たちはいけないことをしているのではありません。読んだり書いたりする必要があるからやっています。姿は違いますが、授業に参加しています。ここで皆さんに知ってほしいのは、「形骸化」ということです。形だけ残って中身がない状態になることを意味します。その状況の下では、頑張っても頑張っても、なかなか成果が上がりません。

なぜ「話します」と注意を促すのでしょうか。視線や注意をこちらに向かせるためですよね。「これから話しますので、聞いてくださいね」という話し手の思いがそこに表れています。その思いを込めるだけだと、いずれは「形骸化」していきます。

話し手は、そう呼びかけた以上、聞き手の都合を、目と耳でしっかり確かめなければなりません。「話します」という言葉の後に、自分の目と耳で、仲間がこちらに視線と注意を向けているかを確かめることです。時には、仲間がペンを置くまで待つあげてもよいのではないのでしょうか。「○○さん、大丈夫ですか」と優しく声をかけてもよいのではないのでしょうか。

聞き手は、呼びかけられた以上、話し手に自分の都合を伝えなければなりません。「はい」という言葉だけが、自分の都合を伝える手段ではないはずですよ。「少し待ってください」と聞き手が言えると、それが「私は話し手の△△さん(が話そうとしていること)を大切にしています」という意思表示になるでしょう。

「形骸化」については、職員の皆さんにも考えてほしいと私は思います。授業を計画通り進めたい気もちはよくわかります。しかし、だからと言ってスムーズすぎる授業をしていては、その授業も「形骸化」します。これからは、生徒と教師が、共に今の授業を謙虚に振り返ることが大切です。

「最高の授業」は、生徒と教師の努力が合わさって生まれるものです。共に「形骸化」している部分はないかをしっかりと振り返り、温かくて楽しい授業を作り上げてくださいな。授業とは、本来そういうものはずですから。

(三月十六日 記)